

新・さぬき野

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2020 No.68

春

春を歩く、 1day 遍路。

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2020 No.68

春

春を歩く、 1day 遍路。

香川に住んで

はじめたこと



パンによっては、さぬきうどん用に開発された香川県オリジナル小麦「さぬきの夢」をブレンドした粉を使用。



2018年3月、香川県三豊市に、新しいパン屋ができた。鎌内さん家族がパン職人である仁さんの独立を機に、京都から移住して開いた店だ。車も人もそれほど通らない田舎道にある店には、ハード系を主体にさまざまなパンが並ぶ。

「できるだけ手づくりした具材を

たっぷり入れ、うどん

用小麦粉をメインで

扱う卸売店から粉を

仕入れるなど、他店とは違う

試みて、独自の味わいを目指

しています」と仁さん。確かに



クリスマス菓子が評判になって独立を決心したので、「希望の星」といわれるクリスマスツリーの頂の星にちなみ、店名を「キボシ」にした。

どのパンも、ドライフルーツやナッツ、クリームなどがたっぷり。外側はパリッと、内部はもっちりしたハード系のパンに、幅広い年齢のファンがついた。

都会で商売すると

「作りたいパンを焼い

て、家族で楽しく暮ら

す」という、シンプルな

人生のテーマが見えな

くなりそうだと感じ、移

住を考えた。自然に

囲まれているが自然災

害は少ない、温暖な香

川県が候補に挙がり、家

族で車に乗って県内

を周遊。穏やかに海と

山が広がる景色に、「こ

こは、うちの家族にび

つたりだ」と気持ち

が固

まった。

「平日の夕方から釣

りや虫取りができ、キ

ャンプにも行ける。息

子たちとやりたかった

ことが、全部身近で可

環境です」と妻の絵

里さん。2年住む間

には、地域の人の

ちの小さな優しさに

触れ、温かい気

持ちになることも多

かった。

「今の暮らしに何も

不足はありません。

でも子育てが落ち

着いたら、始めたい

ことがあります」

京都で子ども服を

作り販売していた

絵里さんは、自宅

の一部を服づくり

のアウトリエにす

る計画を少しずつ

進行中だ。

鎌内 仁さん

神奈川県の横須賀生まれ。夫婦で「飲食店を開こう」と決め、パン屋で7年修行。友人のために作ったクリスマス菓子「シュトーレン」に、直接注文が入り始め、独立を決意した。



[パン屋キボシ]
香川県三豊市三野町大見甲5659-1 TEL 0875-23-6551

香川県情報誌

新・さぬき野 2020 春

No.68



香川県に関する問い合わせ

香川県広聴広報課

〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019

香川県のホームページ

https://www.pref.kagawa.lg.jp/

新・さぬき野のページ

https://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/sanukino/ (スマートフォン版有り)

香川県東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100

香川県大阪事務所

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661



かがやくけん、かがわけん。

香川県



「1day 遍路」である。

歴史をひもとけば、江戸時代に僧侶の修行から庶民にも広がったという「四国遍路」。幅広い人々の願いを受け止めるようになった遍路は、自由な姿で変遷してきた。戦後は、バスで札所を巡る遍路が大ブームに。現在も、タクシーやキャンピングカーなど巡る方法はさまざまである。

しかし、遍路の醍醐味^{だいごみ}を味わえるのはやはり「歩き遍路」。四国の自然の中に身を置き、弘法大師と対話するかのようにたどる遍路道には、さまざまな発見がある。好きな区間を巡る「区切り打ち」、一県の札所を巡る「二国参り」など、巡り方も自由である。入門編としてお勧めしたいのは、1日で巡れる香川の3コース。休日の日帰りイベントとして、心も軽く歩み出す

気軽に歩ける 遍路の入門編。



少しずつ暖かくなる気温とともに植物も生き物も目覚める春。自然の中をゆっくり歩けば、その喜びを肌で感じられる。香川には日本を代表するウォーキングコース「遍路」がある。なにも全ての札所を巡ろうと言うのではない。緑や花々を眺めながら1日で歩いて巡るコースがあるのだ。遍路は春の季語。遍路旅を始める最高の季節である。



1day 遍路で春を楽しむ。

第82番根香寺からJR鬼無駅、または第83番一宮寺に向かう、五色台南斜面からの眺め。春の桜が美しい道から、小山が顔をのぞかせる讃岐平野ののんびりとした情景を見下ろす。





第80番 国分寺

創建当時である奈良時代の遺構をよく残した寺で、旧境内の全域が四国で唯一の国の特別史跡。



第81番 白峯寺

弘法大師と大師の妹の子といわれる智証大師の創建と伝わる。悲運の天皇、崇徳天皇の菩提寺であり、境内には天皇、神、仏を一堂にまつる全国的にも他に類を見ない頓証寺殿がある。



瀬戸内海国立公園に突き出たような五色台は、香川県独特の「メサ」と呼ばれる台形状の山地。瀬戸大橋と備讃瀬戸の眺望は秀逸で、各展望台を巡る絶景のドライブコースがあることでも知られてきた。山上には、休暇村讃岐五色台や瀬戸内海歴史民俗資料館などの施設も点在している。

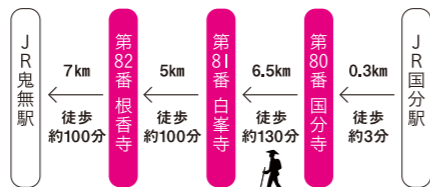


瀬戸内海歴史民俗資料館

瀬戸内海国立公園に位置する香川県の海岸線をたどれば、ちょうど真ん中辺りに「五色台」がある。五つの峰があり、青峰、黄峰、赤峰、白峰、黒峰と呼ぶ。「五色」は、空海が伝えた真言密教における五つの知恵を表すといわれ、金剛界曼荼羅の中心に位置する五智如来にもつながる。古くから信仰の地であり、山中には四国霊場第81番白峯寺、第82番根香寺、山裾には第80番国分寺がある。

お遍路の醍醐味を気軽に二日で体験してもらおうというものだ。五色台からは、瀬戸大橋や島々を一望することができ、南に目を向ければ小山とため池が点在する讃岐独特の風景を楽しむことができる。峰々には変化に富み、山深く分け入るような自然の趣を味わうこともできる。何より、三カ寺はそれぞれ魅力にあふれ、第82番に向かう「根香寺道」は国の史跡であり、文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれている。記録に残る限りでも江戸時代前期から続く遍路道である。

讃岐平野と瀬戸内海、 霊峰の絶景を望む。



午前9時ごろにJR国分駅を出発して国分寺、白峯寺、根香寺を巡り、JR鬼無駅に午後5時ごろ到着する所要8時間の行程。車なら瀬戸大橋周辺や高松市から出発して半日のコース。



「霊峰五色台三霊場参り」では、三カ寺で専用の納経帳(有料)と五色台の名所旧跡、周辺のうどん店や宿泊地を記したガイドマップを用意している。三カ寺全てを参拝して納経を行うと、記念の缶バッジの贈呈がある。



第82番 根香寺

五色台の主峰、青峰山にあり、密教修行の地として弘法大師が創建したと伝わる。新緑の美しさは、四国霊場の中でも屈指の参道である。門前では人間を食べる恐ろしい怪物「牛鬼」の像が迎える。



讃岐山脈から瀬戸内海へ 逆打ち出発コース

四国霊場最後の札所は「結願の寺」と呼ばれる第88番大窪寺である。あまたのお遍路さんが目指した大窪寺を含めた三カ寺をたどるルートが「四国遍路上がり三カ寺」。

オリンピックイヤーの今年はいよいよ。四国遍路が開かれた由来の一つにある衛門三郎が88番から逆に回り、やつと弘法大師に巡り会った話もうるう年だと伝わり、ご利益が倍増するという「逆打ち」の年。まずは第88番大窪寺を出発して、上がり三カ寺の「逆打ち」を体験してみるのはどうだろう。讃岐の山深くから歩き始め、田園地帯に

囲まれた長尾の街中にある静御前ゆかりの第87番長尾寺を参拝し、瀬戸内海の波音も近い、海女の玉取伝説が伝わる第86番志度寺に至る。

大窪寺から長尾寺へ向かう途中には、歩き遍路の情報が歴史を含めて集積されている「おへんろ交流サロン」がある。今年には空海が弘法大師の諡号を賜って1100年。お大師さんがお大師さんになった年を記念して、各札所では大師納経の特別授与も行っている。



おへんろ交流サロン

お遍路さんの交流の場であり、情報の収集拠点でもある。「へんろ資料展示室」には、江戸時代の紀行文や納札など、貴重な資料が展示されている。歩きや自転車のお遍路さんには88番の札所を全て巡ると「遍路大使任命書」「自転車遍路大使任命書」が授与され、「同行二人バッジ」の贈呈がある。

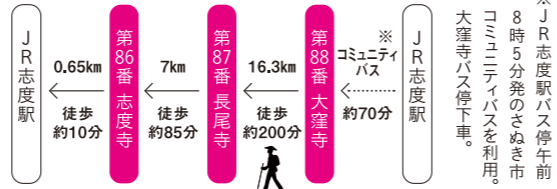


【お問い合わせ】
一般社団法人さぬき市観光協会 TEL087-894-1601



第88番 大窪寺

高僧行基や弘法大師の修行の地と伝わる。弘法大師が唐から帰国後に恵果阿蘭梨より授けた三国(印度、唐、日本)伝来の錫杖を納めて大窪寺と名付け、結願の寺と定めた。ゴールデンウィークの頃にはフジやボタンの花が華やかに咲く。



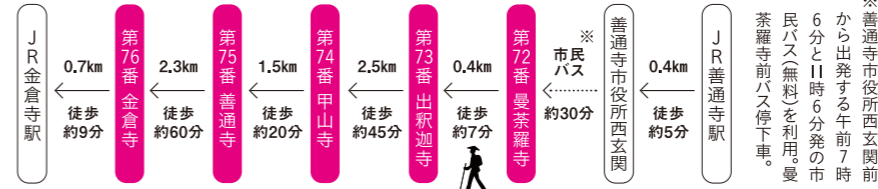
大窪寺門前にある打ち込みうどんの名店「八十八庵」は、駐車場のしだれ桜でも有名で、シャクナゲ園(4月中旬～5月上旬)やアジサイ園(6月上旬～7月上旬)もある。写真は、オリーブ牛肉入り打ち込みうどん。



お遍路さんの金剛杖などは賣杖堂へ奉納され、春分の日と山の日の「柴灯大護摩供養」で供養される。金剛杖を使うことで足腰の負担が軽くなる。



出釈迦寺奥の院
捨身ヶ嶽禪定
真魚の修行伝説が残る聖地。山の下にある第73番出釈迦寺からも参拝することができるが、道が整備されているのでミニ登山もおすすめ。



総本山普通寺

弘法大師・空海ご誕生の地と伝わる総本山普通寺。弘法大師三大霊跡の一つであり、父である佐伯普通の名前が寺院名の由来。幼い日に空海が眺めたと伝わる大楠が境内にそびえている。毎年ゴールデンウィークには、五重塔内部の特別ご開帳がある。2020年は4月25日から5月6日まで。

【お問い合わせ】
普通寺市商工観光課 TEL0877-63-6315

空海の 原点をたどる 五カ寺めぐり

幼名「真魚」と呼ばれた四国遍路の開祖・空海は、774(宝亀5)年に現在の普通寺の地で生まれた。第75番普通寺の西側には、屏風ヶ浦とも呼ばれる五岳山が美しく連なる。少年時代の空海は、この野や山を駆け巡ったことであろう。その五岳山にある5つの札所を巡るルートが普通寺市の「五カ寺めぐり」。現在の五カ寺は大半が平地にあるため、子どもたちの初遍路にも最適だ。

時間と体力に余裕があれば、ぜひ第73番出釈迦寺の奥の院「捨身ヶ嶽禪定」まで足を延ばしてみたいかがだろう。ここは7歳の真魚がこの身を



緒仏にささげると念じて断崖絶壁から身を投げ、お釈迦様に助けられたという伝説の地。まさに空海のルーツをたどるような旅になる。

普通寺市出身の荒井良二氏のイラスト「空海さん」を起用した五カ寺めぐりのガイドブックがある。トレッキング希望の人は、五岳山めぐりのガイドもあり、山頂の絵馬掛けに付いているスタンプを全て押すと五カ寺で「五岳山登頂証明書」がもらえる。



総本山普通寺では、3人以上、1週間前までの予約制で、精進料理(食のみ)を味わうことができる。

香川生まれの希少糖 健やかな 甘さを 世界へ

希少糖D-ブシコース。これに続き、さまざまな希少糖が、医薬品、人や自然に優しい農業などで事業化される可能性がある。



黒砂糖が主流だった江戸時代に、繊細な味わいの砂糖「和さんぽん」の製造に成功した讃岐。21世紀の香川県では、希少糖含有シロップが健やかな甘さの世界を開いた。

希少糖は、自然界に極めて少量しか存在しない糖のことだ。香川県で酵素による生産法が発見されて研究が始まり、「糖の吸収を穏やかにする」「肥満を予防する」などの健康効果が判明。産業化が進む。昨年は、甘さの新時代を予感させる大きな動きがあった。

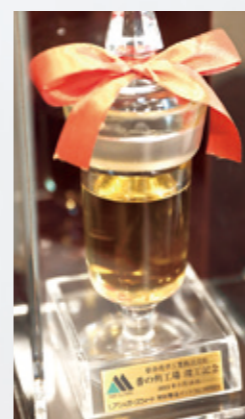
希少糖含有シロップ 機能性表示食品に

希少糖含有シロップは、2011年、最初に商品化された希少糖入りの食品だ。ぶどう糖果糖液糖（異性化糖）をアルカリ化する製法で作られ、シロップの中に数種の希少糖が合わせて12%以上含まれる。

生産を担う松谷化学工業（本社：兵庫県伊丹市）の工場が香川県内にあり、国内に加え、韓国、香港、サウジアラビア、インドなどにも出荷している。

このシロップのうち、消費者向けの商品は、昨年夏「砂糖よりも血糖上昇を緩やかにする」機能性表示食品として消費者庁に届出が受理された。2015年の制度開始当初は、糖質・糖類が制度対象外だったが、香川県や業界団体が見直しを要請して実現した。機能性を明示するとともに、今までより溶けやすいシロップにし、内容量、価格、ラベルも変更。リニューアル後の、消費者への売り上げは、1.5倍〜2倍ほどになっている。

一方、シロップの約8割は業務用の食品や飲料に使用されており、今後は、このシロップを使った商品での機能性表示食品の届出も見込まれる。



2013年7月19日、竣工した番の州工場における初回製造ロットの希少糖含有シロップ。

純度100%の希少糖 世界に向け生産スタート

そもそも、希少糖は研究者の間でもほとんど注目されない糖だった。ところが1990年代初頭に、香川大学農学部いずみりげんの何森健教授（現・特任教授）が、希少糖D-ブシコース（D-アールコース）を作り出す酵素を発見し、本格的な基礎研究が始まる。すると驚くほど多様な効果が見いだされ、香川県内の産学官の機関が連携して、大量生産技術の確立や機能性の解明に向けた研究開発が進んだ。

昨年11月には、酵素を用いた製造法で、純度100%に近いD-ブシコースを生産する工場がメキシコで竣工した。D-ブシコースは、「血糖値の上昇抑制」「脂肪燃焼の促進」「動脈硬化の抑制」などの効果が期待できるとの研究結果が出ており、さらにカロリーがほぼ



これまでに、希少糖含有シロップを使用した1,400種もの食品が600社以上から発売された。食品業界では、柑橘類、コーヒー、抹茶などの風味を引き立たせる「風味改善」効果でも評価が高い。



上が、D-ブシコースの酵素生産工場。国内外に先駆け、昨年11月に、香川県内の事業者からD-ブシコース入りの菓子の販売も始まった。



希少糖含有シロップの工場内部。シロップもD-ブシコースの酵素も、瀬戸大橋のたもと、番の州臨海工業団地で生産される。



松谷化学工業株式会社
専務取締役
希少糖事業本部 本部長

渡辺 力太郎さん

希少糖の健康効果への関心は日本よりむしろ海外で高く、例えばインドでは希少糖含有シロップを、医師とタイアップしてドラッグストアで販売しています。昨年は、弊社と米国サプライヤーのイングレディオン社が協業し、「ASTRAEA（アストレア）」のブランド名で、メキシコでD-ブシコースの生産をスタートし、今年はアメリカでの大きな展開も見込まれます。

引き続き、香川県の希少糖の産業化、ブランド確立に協力し、世界の人の健康に貢献します。

ゼロであることの訴求力も強い。年内には、日本、そして糖尿病や肥満が社会問題として深刻なアメリカへも出荷が始まる。

その追い風となるのが、昨年4月に発表された米国食品医薬品局の指針。D-ブシコースを「栄養表示における糖類分類から除外する」と示された。これによりアメリカでは、「カロリーゼロ」に加え「糖類ゼロ」の表示ができ、一部の地域で課税されるソーダ税（砂糖飲料税）の対象から除外されたことで、付加価値の高い商品づくりの可能性が広がった。

D-ブシコース生産のための酵素は、希少糖含有シロップと同じ香川の工場で生産され、メキシコに送られる。希少糖生産の核となる技術は、これからは香川で息づいていく。



国文学者
中西進

1929年東京都生まれ。国文学者。文化功労者。万葉集研究の第一人者として、教育、研究に従事。東京大学大学院を修了後、成城大学教授、筑波大学教授、国際日本文化研究センター教授、大阪女子大学学長、京都市立芸術大学学長などを歴任。瑞宝重光章、文化勲章、日本学士院賞、菊池寛賞ほか受賞。著書に「古代史で楽しむ万葉集」(角川ソフィア文庫)「中西進著作集」(四季社)など多数。



香川県知事
浜田恵造

時間軸もさかのぼりながら成長することができているのが、地方に古里を持つ人の強みかもしれないですね。先日、栗林公園でふつと潮の香りを感じ、懐かしい感覚に襲われました。そこで二句「潮風を父祖の血として夏座敷」。私を形作っている目に見えない大切なものが、讃岐ではないかという思いが日ごとに強くなってあります。**知事** 先生のお父上は「藻城」という俳号であったと伺いまして、由来となった高松藩の城「玉藻城」は、讃岐の狭岑島、現在の坂出市沙弥島で柿本人麻呂の詠んだ「玉藻よし讃岐の国は国柄か」という

万葉集の歌にちなむと聞いております。

中西 この歌は、柿本人麻呂が狭岑島で行き倒れた人の姿を見て慰めているのですが、歌い方が非常に面白く、最初から讃岐を褒めちぎっています。讃岐の国は立派な藻がある良いところ、いつまで見ても飽きないのは、お国柄だろうか、神の国だからだろうか。非常に尊いところだが、波が大変荒々しく島が多いと歌っています。万葉の時代から多島美を誇っているの

令和 を尊ぶ 時代へ

祖国復興のために朝鮮半島に向かいます。白村江の戦いで破れる不運の王子です。豊璋の大軍団が瀬戸内海を西に向かう途中で讃岐に立ち寄り、国府のあたりで歌ったのではないでしょう

か。「綾」というのは、文明度の高い渡来人を指しています。綾歌郡に残る「陶」という地名からも須恵器を作る渡来人が住んでいたことが分かります。当時の讃岐は、想像以上に国際的な地域でした。**知事** 万葉集は貴族のみならず、詠み人不明や上級官僚ではない人々の歌も数多く取り上げられています。さらに異国の人の歌も入っているとすると、ますます興味深いですね。中西先生は、万

ですね。中でも名前が美しい狭岑島。海が良い、島が良い。ところが、そこに痛ましい運命に遭った人がいて、尊い神話の世界に抱かれて、死の世界へ行つたと捉え、最後はおいしい食べ物がありたくさんあるのに、口に運んでくれる人もなく死んでしまったと、愛の欠落を歌います。人麻呂の代表作が生まれた場所がほかならぬ讃岐です。命の有限を超えた無限を感じさせる讃岐という風土を非常によく見通した歌だと思えますね。

知事 柿本人麻呂も訪れた沙弥島は、今では陸続きになり、瀬戸内国際芸術祭の島としても注目されるようになりました。最近では、香川県にもよく訪れてくださるとのことですが、好きな香川の味はありますか。

中西 子どもの頃、瀬戸内海に船を浮かべ、魚を釣って両親と船上で食べた思い出があります。そのせいでしょいか、「鯛浜焼き」が今も大好きです。そして何ととっても讃岐うどんは天下二品ですね。

知事 万葉集の話に戻りますが、第一巻にも「讃岐国安益郡に幸しし時に軍王の山を見て作れ

葉集の根幹には平和への願いがあると常々おっしゃっておられ、その思いは「令和」という元号につながると思われておられますが。

中西 年号は暦の一種ではなくて、むしろ「文化的なおしゃれ」というような気がしています。元号には西暦では表現できないものがあります。日本人がこだわるものだから、日本の古典に由来するものであってほしいですね。「令和」の「令」という字は整った美しさ、はつと見る者の身が引き締まり、思わず仰ぎ見てしまう令(麗)しい(美しい)美を表し、「和」は和やかさ、平和への願いが込められています。1945年以來、日本は平和をひたすら願ってきました。1945年は敗戦の年というだけではなく、平成に始まった武人の政治が文官政治になった重要な年です。1945年から75年近くが過ぎ、日本は「令(麗)しい平和」を願う段階に進んだということでしょう。

知事 香川県は万葉の地の一つとして、令和の時代には、さらに和を尊び「令(麗)しい」日本文化を大切に継承していきたいと考えております。ぜひ今後ともご指導をお願いいたします。本日は貴重なお話をありがとうございました。



野外に立つ織の生地で軽くて丈夫なバッグが誕生した。折り畳んで入れておくこともできる。大きくても軽いトートバッグなど基本5種類の形がある。形を選べば、好みの色柄を探し自分だけのバッグを手に入れる。

浴衣にも映える手軽なショルダーバッグ。世代を超えて人気がある。



一期一会の「KONBAG」

コンバッグ

元気を招く「Happi Bag」

ハッピーバッグ

染匠 吉野屋

同じ柄は一つとしてないという「KONBAG」は、
 こんぴらさんのお膝元で春に幕が開く
 「金毘羅歌舞伎大芝居」の織にちなんで生まれた色鮮やかなオリジナルバッグ。
 祭りの法被に描かれる伝統のデザインを生かしたのは「Happi Bag」。
 ハレの日に躍動する男たちの背中で踊る竜や虎が
 大胆に切り取られ、迫力たっぷりの柄となる。
 どちらも、手にする人に元気を幸せを招いてくれそうだ。

汗を吸い、冬は暖かい法被は一年を通じて個性的な上着にもなる。法被姿は門前町に映える。

讃岐のり染の各種染料

使い込まれた多数のはけ

小物も伝統のデザイン

紫外線にも強い「正藍染」のスクarf



「讃岐のり染」の伝統から生まれた

讃岐路の春の風物詩として定着した「金毘羅歌舞伎大芝居」。大芝居の一つの立役者は、色鮮やかな織である。江戸の風情を残す芝居小屋「金丸座」をはじめ琴平の町中に織が立ち並び春風にたなびく。芝居好きならずとも心が弾む。織を染めているのは、琴平町の老舗染物屋「染匠 吉野屋」。百有余年前の明治時代に琴平の地で開業し、現在は「讃岐のり染」の香川県伝統工芸士である3代目大野等氏と共に4代目篤彦氏が店を継ぐ。「讃岐のり染」とは、もち粉で作られたのりを使う染色方法である。この伝統技法

を用い、氏子祭りの法被やのれん、獅子舞の油単など、さまざまな染め物を手掛けてきた。織は軽やかになびくが雨にも風にも強く、何より人の目を引き付ける魅力がある。そこで、織のデザインをベースに街も人も「元気になるような」バッグを作りたいと思いついたのが4代目の篤彦氏である。篤彦氏は京都の大学で美術を学び、印刷会社のデザイン企画部を経て家業を継いだ。幼い頃から祖父や父の手によって生み出されていくポップな配色に面白さを感じていたという。

法被は息子や孫に受け継がれる。地域で最大の祭りといえば、金刀比羅宮の秋の例大祭である。それに先立ち、門前町の氏子祭りでは太鼓台が繰り出し、力強いパチの音で邪気を払い、街を清めていくという。清浄になった山下に、山上から神様がみこしに乗ってお出ましになる。家族の絆や災いを払う勇壮な祭りを思わせる法被の柄を生かしたバッグは「Happi Bag」と名付けられた。もちろん持つ一人一人の幸せ「ハッピー」を願う一点もののバッグである。

「KONBAG」を作るための布は織とは別に染める。織のデザインがベースではあるが、より鮮やかに、色数を多くしたバッグのための染色である。さらに自社で裁断し、仕立て上げる。まさに二期一会、伝統芸能と伝統工芸が融合し、この世に一つだけのバッグが完成する。吉野屋の大きな仕事のもう一つは、地元で行われる祭りの法被づくり。琴平町では、祭り組などではなく、一人一人が自分だけの法被を仕立てる伝統がある。襟は付け替えや染め直しをするが、見事な背中の図柄と共に

オリジナルバッグを生み出した篤彦氏は、ものづくりを通して琴平町に貢献したいと、「正藍染」の工房をオープンした。ここでは買い物だけでなく旅行客が見学や体験をすることもできる。琴平町のブランド作りを目標に、伝統技法を生かし、今に生きるデザインを模索し続ける吉野屋4代目篤彦氏である。

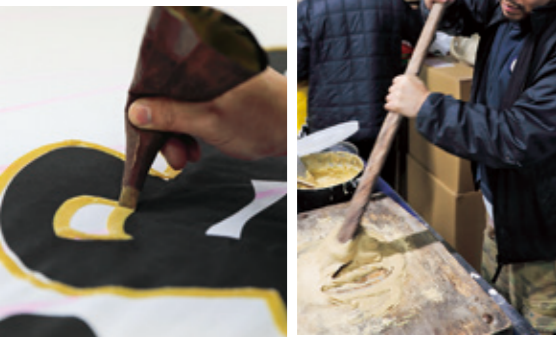


染匠 吉野屋4代目 大野 篤彦氏

京都精華大学美術学部卒業後、印刷会社のデザイン企画部を経て家業を継ぐ。



もち粉・石灰・食塩・ぬか・水を混ぜてのりをつくる。柔らかすぎても固くなくても使いものにならない。



型紙などによって模様を付けた布地にのりを置き、はけなどで染め上げれば、のりを置いた部分は染料が混ざり合わず、色鮮やかな模様が浮かび上がる。世界でも類を見ない日本独特の染色方法である。



商店街の入り口、鳥居の傍らにある吉野屋の店舗。店内には、見るだけでも楽しい法被やバッグが並ぶ。

染匠 吉野屋
 香川県仲多度郡琴平町旭町286番地
 TEL0877-75-2628
 OPEN 午前10時～午後5時(水曜定休)



金毘羅歌舞伎の織は1985(昭和60)年の第1回大会から、讃岐のり染の技法を用い吉野屋が手掛けてきた。



吉野屋が新たに組み立てる「正藍染」とは、「すくも」を「灰汁」で自然発酵させる伝統的な藍染め。色落ちも色移りもなく、抗菌作用や虫よけ効果もある。写真は藍の乾燥葉。

香川・愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIME
SETOUCHI SHUN SAI KAN
東京・新橋アンテナショップ
特産品ショップ、郷土料理、観光情報コーナーで
香川の旬をぜひどうぞ。

注目はこれ!

開館から総来場者800万人達成間近

おかげさまで旬彩館は、今年3月で開館17年目を迎えました。お正月の香川・愛媛のお雑煮対決もすっかりお馴染みに。営業初日の1月4日は1階の店舗までずらりと行列ができ、12日間で約1,200杯のあん餅雑煮が提供されました。

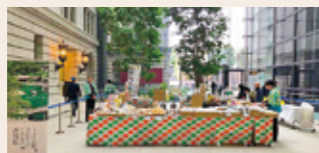
「今年も楽しみにしていた」という声も多く、香川の文化が広がっていることを実感します。



旬彩館は、新橋での店舗営業のほか、企業やイベント会場などでも物産展を開催しています。定番の讃岐うどんをはじめ、和三盆、しょうゆ、しょうゆ豆、オリーブオイル、ノリ、ちりめんなど、香川を代表する食べ物や、香川でしか買えないものを首都圏の皆さんへ提供しています。

香川の観光PRや工芸品の紹介などもあり、香川の魅力を大いに感じていただける旬彩館の物産展です。

「会社の東京支社や東京本社で物産展を行ってほしい」「知り合いの会社で、香川を広めてほしい」など、ご希望がありましたら、ぜひお問い合わせください。



〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10 新橋マリビル1・2階
http://www.setouchi-shunsaikan.com
TEL03-3574-2028

さぬきのええもん うまいもん かがわ物産館「栗林庵」 開店7周年感謝祭

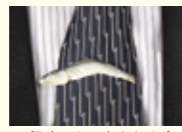


栗林公園にある、かがわ物産館「栗林庵」。香川県のおいしい食べ物やすてきな工芸品など数多く取り揃えた人気のお店が、7周年感謝祭を開催中です。

本物の「伊吹いりこ」にそっくりなアクセサリなどの新商品や限定商品も登場。ぜひこの機会に、春の栗林公園と併せて、香川の魅力あふれる県産品をご堪能ください。

【期間】3月22日(日)まで

かがわ物産館「栗林庵」 TEL087-812-3155
栗林庵 検索 <https://www.ritsurin.jp/>



伊吹いりこネクタイピン



伊吹いりこブローチ

〔東京で味わえる香川の恵み〕

香川の食材に東京で出会った。
まずは東京で。次はぜひ本場香川へ



素材を、味わう 「オリーブ牛の あぶ 炙り焼き」

JR五反田駅から徒歩5分、地下にたずむのは、直島にある芸術作品の影響を受けたアーティストックな空間。「ルバ・ド・ナオシマ」では、香川県産食材にこだわったさまざまな料理が堪能できます。

中でも、人気のメニューが「オリーブ牛の炙り焼き」。「シントマ」といわれる赤身の部位を、塩とワサビでいただく逸品。「味付けは塩とこしょうのみ。赤身のうま味、しっかりした油分がありながらもさっぱりした味わい。素材のおいしさを味わっていただきたい」と店長の太田俊平さん。

また、春限定メニュー「讃岐うどんのペペロンチーノ」もお薦め。讃岐うどん、春キャベツ、県産ちりめんをオリーブオイルと絡めた創作料理は春らしさを楽しめます。デザートには、県産の卵を使用した「Naoshimaプリン」をぜひ。卵黄のみ使用することで生み出される濃厚な味わいが絶品です。

「食材は一期一会。香川の素晴らしい食材をたくさんの方に知っていただきたい」

太田店長の思いは、料理を提供する際に欠かさない食材の説明からも伺えます。オリーブ牛、オリーブ豚、オリーブ地鶏、瀬戸内海の地魚に新鮮な県産野菜。香川県産食材にこだわった料理の数々をぜひお楽しみください。



【Repas de Naoshima(ルバ・ド・ナオシマ)】
東京都品川区東五反田5-27-2 メインステージ五反田駅前地下1階
TEL03-6413-5300

台北線毎日運航、香港線増便 高松空港の航空ネットワーク

ますます便利に!

羽田、那覇、成田の国内線3路線と、ソウル、上海、台北、香港の国際線4路線が就航する高松空港。2018年度には、国内・国際線定期路線の利用者数が、過去最高となる約206万人を記録し、成長を続けています。

3月29日からは台北線が毎日運航へと増便、また昨年10月から香港線が週5往復に増便されるなど、国際線が一層充実。

ますます便利になる高松空港を、ビジネスや観光にぜひご利用ください。

「高松—台北線毎日運航記念キャンペーン」も開催予定。詳しくは、高松空港ホームページをご覧ください。

【問い合わせ】香川県交通政策課航空振興室 TEL087-832-3136

高松空港 検索 <https://www.takamatsu-airport.com/>



日本を代表するモダニズム建築 香川県庁舎東館ガイドツアーを再開



日本を代表するモダニズム建築である香川県庁舎東館。歴史的な建造物の見学ができること好評でありながらも、建物の耐震改修工事に伴い一時休止となった東館ガイドツアーがついに再開しました。

1958年(昭和33年)竣工の香川県庁舎東館は、世界的な建築家・丹下健三氏の初期の代表作。日本の伝統的な木造建築とコンクリートによる近代建築を融合した文化的価値の高い建築で、近代建築の記録と保存を目的とする国際学術組織の日本支部「DOCOMOMO Japan」から1999年に「日本の近代建築20選」にも選ばれています。

県の防災拠点施設であり、世界が認める文化的価値を誇る香川県庁舎東館の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

香川県庁舎東館ガイドツアー

【実施日時】 毎週火曜日・木曜日(祝祭日、年末年始を除く)
毎月第2土曜日
午前の部:10時開始 午後の部:2時開始
※所要時間は1時間程度

【定員】 各時間帯先着20名(要事前申込)
【予約・問い合わせ】香川県財産経営課 TEL087-832-3075

香川県庁舎東館ガイドツアー 検索

2020年に訪れるべき目的地TOP10 日本で唯一「高松」が選ばれる



世界最大規模の旅行予約サイト「Booking.com(ブッキングドットコム)」が発表した2020年に訪れるべき目的地TOP10に、日本で唯一「高松」が選ばれました。

讃岐うどんや栗林公園などが取り上げられ「活気に満ちた食文化や風光明媚な背景に興味のある旅行者に最適な港町」として紹介されています。

また、「高松」は世界中で利用されている旅行比較サイト「Skyscanner(スカイスキナー)」が発表したアジア太平洋地域における2020年の注目すべき新興目的地TOP10にも選ばれています。

瀬戸内国際芸術祭2019の開催もあり、海外での認知度が高まっている香川県。讃岐うどん、現代アート、瀬戸内の島々、フォトジェニックな風景など、外国人旅行者を魅了するその理由を、皆さんもぜひ香川県で見つけてください。

【問い合わせ】香川県観光振興課国際観光推進室 TEL087-832-3363

幻想的な夜桜を楽しむ 栗林公園春のライトアップ



約320本の桜が見頃を迎える、特別名勝「栗林公園」。3月27日(金)から4月5日(日)までの10日間は、「春のライトアップ」でこの時期だけの幻想的な景観が楽しめます。

水面に映し出される桜や、心躍る夜桜のトンネルなど、園内各所で演出される夢のような空間。光と影のコントラスト、松と桜が織りなす風景が、訪れる人々を魅了します。

さらに、期間限定で夜間に運航される和船では、ライトアップされた桜や島々が水面に移り込む景観をゆったりと味わえます。

その他、さまざまなイベントを開催。なお、駐車場は台数に限りがあるため、来園には、公共交通機関がお勧めです。昼間とは違った春の栗林公園を、心行くまでお楽しみください。



【問い合わせ】栗林公園観光事務所 TEL087-833-7411

栗林公園 検索 <https://www.my-kagawa.jp/ritsuringarden>

香川県立ミュージアム 特別展「白馬のゆくえ 小林萬吾と 日本洋画50年」

香川県立ミュージアムは、特別展「白馬のゆくえ 小林萬吾と日本洋画50年」を開催します。

香川県出身の洋画家小林萬吾(1868~1947年)の人生は、まさに日本洋画の歴史そのもの。日本洋画の父・黒田清輝らと明治時代のアバンギャルド「白馬会」を結成し、バリ留学を経て、西洋の模倣を超えた油彩画の日本的表現を追究しました。

展覧会では、小林の代表作をはじめ、黒田清輝、藤島武二、岡田三郎助、彼らが憧れた画家ルノワール、シャヴァンヌ、マルタン、次代を築く猪熊弦一郎、野見山暁治などの名作約150点が、日本洋画の歴史と魅力を生き生きと映し出します。

【日時】4月11日(土)~6月7日(日)午前9時~午後5時
【休館】毎週月曜日 ※5月4日(月・祝)は開館
【会場】香川県立ミュージアム(高松市玉藻町5-5、高松駅から徒歩約12分)
【料金】1,200円 ※前売・団体(20人以上)は1,000円

【問い合わせ】香川県立ミュージアム TEL087-822-0247
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/>



小林萬吾「花魁」